

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 48

2017.1.25発行

編集責任：河地 清

[Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp](mailto:Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp)

第 48 回 「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『明治 10 年代における「地域再生」』

～春日井郡の自力更生運動を中心にして～

平成 29 年 1 月 8 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『明治 10 年代における「地域再生」－春日井郡の自力更生運動を中心にして－』で設定致しました。

福沢諭吉の助力によって明治 12 年 2 月春日井郡地租改正騒擾が終息をみました。しかし、

足掛け 3 年にも及ぶ嘆願運動の結果、村落の疲弊は深刻なものでした。林金兵衛を中心とする村落指導者は村落の再生に取り掛からなければなりません。再び福沢の指導のもとで自力更生に悪戦苦闘して行きます。明治 10 年代の春日井郡の「地域再生」の過程を発表していただきました。今日の「地域再生」「地域活性化」の問題を歴史の中で学び参考になる講演でありました。

講師は、当会会長 河地 清氏でした。参加者は 23 名でした。



講演：河地 清 氏

会場風景

－発表要旨－

「ふるさと春日井の 明治 10 年代における『地域再生』、副題「春日井郡の自力更生運動を中心として」とする講演をされた。春日井郡は明治 13 年 2 月に東春日井郡と西春日井郡に分離された。東西に分離後の明治 13 年 11 月に地租改正事業は終了した。愛知県が地租改正事業を開始したのは明治 8 年 6 月、翌 9 年 6 月に田畑及び宅地の地位等級詮評順序が制定された。林 金兵衛は『地租改正東京行日誌』で「改租の国策苦情は是より初まる」と書いた。春日井郡ではこの詮評順序をめぐり抗議が起き、これに対し、同年 10 月には収穫禁止の公権発動(鎌止め令)がなされた。追い込まれた農民は 10 年 2 月、政府に嘆願書を提出した。明治 11 年 2 月からは、東京神田の三河屋に投宿しなからの地租改正事務所への歎願を繰り返した。その中で、同年 4 月に大先生(福沢諭吉)に拝面。解決への助言を受ける。明治 11 年の徳川家へ資金援助要請を行うことになり、翌 12 年 1 月の 6 度目の歎願却下の後、2 月徳川義勝邸で改租問題が収束することとなった。

以上のことについては、すでに本フォーラム第 9 回(2013.11)で発表されている。「福沢の指導と金兵衛の実践」の関係に初めて目を向けさせた報告であった。福沢諭吉の働き~背後での交渉力・地元リーダーへの説得力・当事者への調整力などが明らかにされた。

さて、今回は、地域の遭遇した困難・困窮を自力で元のいい状態に戻し、生き返らす(再生)、すなわち「自力更生」の運動がどんな力で実現できたのかを分析する内容であった。結論は「キーパーソンズ」の存在である。メジャーな人である福沢諭吉の存在とその指導を受け入れ悪戦苦闘したリーダー林金兵衛の関係があった。キーパーソンズが現れれば必ず再生すると言い切った。

I. 明治 7 年 12 月、福沢に出会った小川武平、印旛県長沼村の「長沼事件」

現千葉県成田市長沼に大正 7 年 3 月に、福沢諭吉の遺業をたたえた「長沼下戻記念碑」

が建った。平成 10 年 10 月に「長沼下戻百周年記念碑」が建立され、事件を今に伝える。長沼の小公園の山上から長沼を一望できる。長沼には福沢通りがあり、福沢記念館がある。築山には数々の石碑が建つ。江戸時代から幕府に年貢を納めて沼の占有権を得て、村の大半の農民が漁業で生計を立てていたが、明治 5 年、周辺の 15 村が印旛県へ沼の官有地化を申請し、長沼村の意見を聞かず県が独断で受け入れた事件である。小川武平が利権の回復請願に県庁のある千葉町に行ったとき、夜店で『学問のすゝめ』を購入した。この本が福沢諭吉との出会いであった。感銘を受け、福沢に事件の收拾を托そうと上京した。福沢は長沼村の利権回復運動に共鳴し、請願文の文案作成を手伝い、県令や政府高官の西郷従道などに書簡を送り支援した。明治 9 年 7 月、一応の解決を見たが、沼は官有地とし、5 年ごとの契約で長沼村の借地権を認めるという内容だった。長沼村はその後も長沼の民有化を目指し運動をつづけた。福沢も主催する「時事新報」などで村民を支え、明治 30 年 3 月に正式に無償払下げの許可を受け最終解決した。最終解決に 20 年余もかかった。事件解決の翌年に福沢は亡くなった。一連の流れは、春日井郡の事件とよく似ている。キーパーソンズ存在と住民のふるさとへの愛着である。

## II. 林金兵衛は「交詢社」発足にも参加、慶応義塾の維持資金のため 30 円を学校に寄付

春日井郡の地租改正反対運動(現在は歎願運動と呼ぶが、当時の農民にとっては「反対」の運動であったとみる)で請願運動のあり方まで指南を受けた金兵衛は、明治 13 年 1 月に設立された交詢社(知識を交換し世務を諮詢する)にも構想にかかわった。日本初の実業家「社交クラブ」は慶応義塾出身者が中心であるが、一般の加入者もあった。発足時の常議員撰挙で選ばれた 24 名は錚々たる顔ぶれであった。福沢諭吉はもちろん、栗本鋤雲(林金兵衛君碑にでてくる「鐫(せん)」=石に文字を刻んだ人)、石黒忠徳(軍医総監、貴族院勅撰議員)、林正明(啓蒙思想家、新聞社社長)、小幡篤次郎(「学問のすゝめ」初版の共同者)、箕作秋坪(蘭学者、啓蒙思想家、三叉学舎開設者)、西周(王政復古では徳川慶喜に近侍、近代哲学の父)、明六社の結成、山県有朋の水戸で軍部官僚、啓蒙思想家)、由利公正(三岡八郎、講演の直後の今年 1 月に坂本竜馬が暗殺 5 日の書状に、新国家の財政担当に必要な人物として書いた、「五箇条の御誓文」にかかわった)など。倒幕のための草薙隊を編成し、御所警護や鳥羽伏見の戦いなどに赴いた金兵衛にとって感慨深い出会いであったに違いない。

配布された年表の中に明治 13 年のところに小さく、「交詢社へ金 18 円寄付(7 名)」と書き込まれている。明治 14 年 3 月 1 日に林金兵衛は 56 歳で他界した。直後の 4 月、嫡子国太郎が交詢社に入会した。74 地域中 7 位の 49 人が加入した。明治 15 年 12 月、歎願運動で共に上京した飯田重蔵ら 5 名が、名古屋での交詢社巡回で福沢諭吉に面会している。前年 10 月に「国会開設の勅諭」(明治 14 年政変)が出され、「交詢社憲法」(擬制憲法)もだされ、国会開設も迫る時期に金兵衛は国政に関わらずにこの世を去った。

## III. 明治 12 年『儉約示談』を 50 部印刷、明治 13 年 12 月から 5 ヶ年間、42 ケ村で実践

(1) 福沢諭吉が書いた「儉約示談原稿」の一部が資料に供された。明治 12 年に林金兵衛に送ったものである。見出しは「尾張国春日井郡和尔良村ヲ始メ合シテ四十二ケ村儉約示談ノ

箇條」とあり、「我春日井郡ニテ和尔良村始其外村々ノ者ハ去ル明治□(空白)年ヨリ地租改正ノ事ニ付不容易難渋を罹リ縣廳ニ歎御本所ニ願ヒ東西奔走十百回ナルヲ知ラス遂ニ歡慶舊藩知事様ノ…※」活字の史料に「追々春暖の好時節…御帰県も御多忙奉察 百事緒に就き候哉御様子爲御知被下度、且兼て御約束の儉約ケ条も、先達より草稿を起し大略は出来候に付、尚一度拝眉、御話も致度御都合次第御自身にて御出京坎、又は其儀六つか敷ば誰にて一名御遣被下度、ケ条に認るに至れば、又地方の習慣風俗をも不心得ては不叶義、何卒御目に罹り度事に御座候。右要用のみ申上度、早々、如此御座候、拝具」と書かれている。「箇条」は林金兵衛が福沢諭吉に頼んで書いてもらったものと分かる。しかも「四十二ケ村」に向けてのものであることもわかる。「林金兵衛梧下(ごか、梧=あおぎり)」と敬意を込め丁寧な扱いをしている。地方の習慣風俗を知りたいのでお会いしたいと真剣に向き合っている。

(2) 「儉約示談」の趣意は解決金残3万5千円の使い方、明治20年までは元利とも使うなという内容だ。上に写した「原稿」の「…※」は印刷不鮮明で読み取れなかったが、最後に添付された「印刷された」本で見ると、「…舊藩知事様ノ内輪御懇諭ヲ蒙リ且改租ノ事ハ十四年ニ至レハ更訂可相成旨本廳ヨリ御指令相成依之改租ノ苦情ハ事落着ニ至リ候得共此事變ノ間ニ金ヲ失ヒタル高モ容易ナラス又コレカ爲ニ寄合集會神佛へ祈願スルナトニテ大勢ノ者共立騒キ此處ニ集リ彼處ニ奔リ大切ナル月日を費シタル其手間ヲ金ニ積リタラハ如何ハカリカの損亡ナラン實ニ我村々ハ明治九年ヨリ十二年ノ今日ニ至ルマテ年々打續キ凶作飢饉ノ災難ニ逢タルモノヨリモ尚甚シキ難渋ト申ス可キモノナリ…」と続く。だから今日の災難を救い、損亡を償うために、村民一同農業家業に精を出し、身代(財産のこと)を持ち直すには、精を出すだけでは足りず、奢侈があれば無益になってしまう。儉約の申し合わせを第一の事とせねばならない。これが「桶の底をふさぐ」という意味である。この申し合わせさえも無益になることがある。心得るべき一箇条は「舶来唐物」の事をあげる。この唐物の災難を防ぐために申し合わせの条々を定めると9箇条を定める。酒、煙草・菓子・缶詰、手遊遊具、西洋造の家、洋服・蝙蝠傘・靴…と具体的に示し、第9条では、この示談の箇条は明治12年8月から向5年間と定め、その時に重ねて評議すべきと書いている。この示談の申し合わせは、時節柄を考えると我村々日本国中で行えば、日本全国の会計を救うことになる。左右を顧みることなく、思い切って施行すべきである、と説く。調印日は明治12年8月である。5年後の再検討とは明治17年8月である。

西南戦争の戦費調達でインフレの根本原因の解消のため不換紙幣の回収に乗り出す(明治14年の政変)。松方財政による対策は「松方デフレ」をもたらした。緊縮財政と歳入増加策で、紙幣発行量を縮小させ、明治18年には兌換紙幣の発見もあり、銀本位制導入の基礎を作ったが、一方で、農産物価格の下落を招き、農村の窮乏を招いた。農地を売却し、小作農への転換、労働者層を増やした。没落農民を大量に生み出した。明治13年2月には東春日井郡と西春日井郡に分離していたが、「42ケ村儉約示談」の調印で、結果的にこの松方デフレを乗り切った。3万5千円の解決金は伊藤銀行に金録公債として預けられ、これを各村の

戸数に合わせ株式として分けられた。利子は7朱とし、これを元に、「自力社」を運営した。松方デフレと自由民権運動、国会開設運動)の流れの中で、自力社を作ったことの貢献の方が大きな意味をもつと河地氏はいう。その設立は明治17年6月、解散は明治26年10月7日であった。福沢諭吉は「交詢社」の地方版として“結社”を薦めた。福沢の薦めた結社は政治結社ではなく、「社会」結社であった。「儉約示談」の原稿を書いたのもそのためであったとみる。「自力社」の案を見て、福沢は「誠に結構な案だ」と評したという。自由民権運動の憲法と議会開設の運動は、明治22年2月の大日本帝国憲法の公布、明治23年7月の第1回総選挙、同年11月の第1回帝国議会で目的を達するが、東春日井郡の「自力社」はその後も存続した。明治22年末からの経済恐慌も乗り越えた。42カ村の村々総代を勤めたカリスマ林金兵衛が亡くなった後も存続し続けたのは、各村々の総代の合議の組織づくりが果たした役割を思わせるが、資料がいまだ眠っていて、詳細の解明はこれからである。国でもない、個でもない、民間の結社が世の中を変えていく近代の仕組みに注目し、地方の春日井郡(東春日井郡)の自力更生の運動に目を付けられた発表であった。

(記録：塚田 忠雄)

## OPINION

### 『ふるさと春日井「まちづくり」の風景』

— 歴史に学ぶ「地域活性化」 —

第48回フォーラム『明治10年代における「地域再生」—春日井郡の自力更生運動を中心に—』の発表内容から解ることは、春日井郡の「地域再生」の鍵は、福沢諭吉の優れた先見性と戦略的指導に導かれた林 金兵衛の誠実で真摯な行動力であったことが解ります。



福沢諭吉



林 金兵衛

す。したがって「事件」は「暴発的」解決ではなく穏便な収拾となったことにより福沢諭吉と林 金兵衛の絆は強い信頼感で繋がってゆくことになりました。疲弊した村落の再生は地域にとって、「一難去って又一難」という状況の中福沢諭吉はその後の地域への面倒を最後まで見ています。啓蒙思想家、教育者福沢諭吉の面目躍如といったところでしょう。

「地域再生」「地域活性化」は、優れた指導者と情熱と使命感を持った行動力のある実践者がいることであることが、この歴史的事実から学べることではないでしょうか。

Key Person こそが地域再生の鍵を握っているのです。古橋源六郎、二宮金次郎、上杉鷹山

等々地域を支えた優れた人々の存在と、主体的に「なんとかしなければ」という Desperate (必死、死にものぐるい)な意識をもった人々の存在がなければ「地域再生」はできないということを歴史の教訓として学びたいものです。

今日の「地域活性化」問題に置き換えて考えて見たときに、何よりもまず「わがまち意識」という当事者意識が存在することです。優れた指導者、リーダーがいなければ、協働で知恵をだすシステムをつくることです。そして、最終的には「なんとかしよう」という Desperate な覚悟と行動力があることです。「金が出れば知恵が引っ込む」「法に守られれば努力をしなくなる」との言は、創意工夫をして努力している個人事業主の言です。補助金行政や、まちづくり三法などの枠組みの中からは、実効性のある新しい発想はなかなか生まれて来ないと

というというのが今日的課題となっています。

今日の「地域活性化」の方法は、一つではありません、多様です。従来の経済中心の地域活性化策に対して、「ふるさと意識」による住民自身による活性化に視点を移し住民の文化的精神的所産を活用することへのシフトチェンジが必要となった時代ではないでしょうか。

(文責：河地 清)

次回

## 第 50 回

# 「ふるさと春日井学」研究フォーラムの ご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見する F O R U M

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

**Forum for Furusato Kasugai Studies**

**Forum テーマ：**

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

— 「研究フォーラム」50 回の間まとめ —

日 時：平成 29 年 3 月 5 日（日） 午後 1 時 3 0 分～ 3 時 3 0 分

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町 3 番地）

講 師：河地 清 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長）

フォーラム内容：平成 25 年 3 月 3 日に発会した本会は、50 回を数えるフォーラムをおこなってまいりました。「ふるさと意識なくして地域活性化なし」をコンセプトに『会報』50 号を発行して参りました。5 年目に入る今を節目とし「地域活性化」とは何かを中間総括しておきたいと考えました・・・・・・後は FORUM で  
(非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。)

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索 